

6.5.31

佐倉市

教育センターだより

Vol.63

令和6年5月31日発行／佐倉市教育センター／TEL.043(486)2400 <https://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/kyoikucenter/index.html>

卒業後の豊かな人生のために

佐倉市教育センター所長 神成 裕尊

今から20数年前、私は市内中学校の2年生の担任として教鞭をとっていました。当時、学級には登校できない男子生徒が1人いました。彼は中学1年生の頃からほぼ欠席で、中学2年生に進級しても登校状況は変わりませんでした。私は家庭訪問を定期的に行い、保護者や本人と定期的に話をすることで、徐々に信頼関係を築くことができるようになりました。登校できない理由としてわかったことは、彼が深夜までゲームを行うことで昼夜が逆転し、心身に不調をきたしたことによるもので、いじめや友人関係のトラブル、学業不振など、学校生活には問題がないことがわかりました。その後、私は管理職の許可を得て、定期的に午前中に迎えに行きました。彼は登校したくないため、部屋から出てこない日が続きました。保護者は私の熱意に押されてか、彼の許可無しに私を彼の部屋へ通してくれることもありました。当然、彼は布団にくるまって出てきませんでした。私が訪問すると、彼は勝手口から抜け出して自転車で逃げることもしばしばありました。私は駆け足で追いかけてたりしたものです。今、思い返すと、彼の気持ちに少しも寄り添わず、登校できない原因の解決にさほど目をおけないまま、一方的な支援を行っていたと思います。当時の私は、登校できない生徒を登校させることが一番の支援方法と思っていたからです。担任が保護者と連絡をとり家庭訪問を行い、生徒を学校へ登校させるという単一的な方法しか行っていませんでした。

時代は平成から令和へと移り変わり、子供たちには個に応じた様々な学習方法が行われる時代となりました。文部科学省は令和元年に「不登校児童生徒への支援は、『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す」ことを示しました。また、令和5年には、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」を発表しました。そのプランには、

- ①不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える
- ②心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
- ③学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

ことを掲げています。

令和の時代の不登校児童生徒への支援の在り方は、以前と比べてより効果的で多様な方法が考えられます。一人ひとりの対応について管理職に相談して助言を仰ぐこと、オンライン学習や教育支援センターへの通級など多様な学習方法を提案すること、子供たちが相談しやすい環境を整えること、保護者と連絡を密にして子供の状況や意思の把握を行うこと、管理職や生徒指導担当、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を含めた「チーム学校」として支援体制について協議すること、学級の子供たちにSOSの出し方教育を行うこと、他にも個に応じた様々な対応が考えられます。

ぜひ、登校できない子供たちの卒業後の豊かな人生を思い描きながら支援をしていただきたいと思います。子供たちの気持ちに親身に寄り添い、思いや願いを丁寧に確認した上で、それに沿ったスピード感のある対応を継続的にお願いします。

その際には、登校できない子供たちの支援の一環として、大いに教育センターを活用していただきたいと思います。

令和5年度佐倉市学習状況調査 ～授業改善の手だて～

令和5年度佐倉市学習状況調査について、基礎基本に関する問題の正答率と授業改善の手立てをまとめました。また、児童・生徒の学習意識調査の「ペアやグループで話し合ったり、学習したりすることが好きだ」という設問の回答と、学力との相関関係を調べました。ここでは調査結果の一部を掲載しています。

国語

漢字の読み書きや言葉の使い方についての問題

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学3年	漢字の読み(箱)	97.5%	言葉(さんま)の季節を書く	68.4%
中学1年	故事成語(矛盾の意味)	96.4%	文の成分(主語)を選ぶ	34.2%
実態と傾向	○漢字の読みが概ね定着している。 ○故事成語の正答率が比較的高かった。 ▲小学校では、送り仮名のある漢字の「書き」に誤答が多い。 ▲中学校では、文法の理解に課題が見られた。		・文の意味を考えながら適切に漢字を使うことができるように、漢字の構成や言葉の意味について指導する。 ・文法は、間違えやすい品詞について定期的に小テストを行い、定着を図る。	

算数・数学

計算や図形などの基礎的な内容についての問題

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学5年	立方体の体積	90.2%	最大公約数	63.9%
中学3年	三角形の相似の問題	95.2%	展開の計算方法をもとに正しい計算式を導く	48.5%
実態と傾向	○基礎的な計算問題では、正答率が高かった。 ○等式の変形は概ね定着している。 ▲計算のケアレスミスが目立った。 ▲四則計算の順序の理解に課題が見られた。		・タブレットを活用して反復練習を行い、効率よく計算練習などを実施し、計算力の定着を図る。 ・掲示物などを活用し、丁寧にやり方を確認して定着させる。	

理科

物質・エネルギー・生命・地球の基礎的な内容についての問題

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学4年	1日の気温の変化の理解	97.4%	物質ごとの温度と体積の理解	65.3%
中学3年	地層のでき方や流水のはたらき	87.8%	オームの法則の理解	67.4%
実態と傾向	○実際の様子が示された問題や身近な物理現象を答える問題では、正答率が高かった。 ▲小学校では、用語理解に課題が見られた。 ▲中学校では、公式の意味や概念そのものの理解に課題があった。		・実験の結果→考察→まとめの流れを丁寧に行う必要がある。 ・生物の種類、指示薬、からだの器官等のようにそれぞれ違う役割、特徴を持つものが複数あるものを学ぶときは、1つ1つを混同させずに、わかりやすく伝えることが重要である。	

外国語

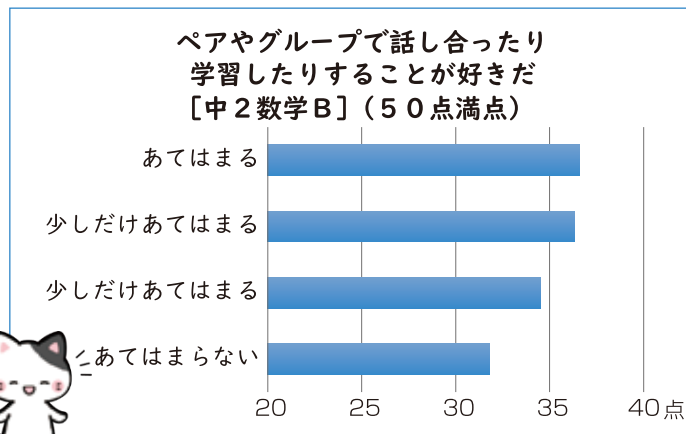
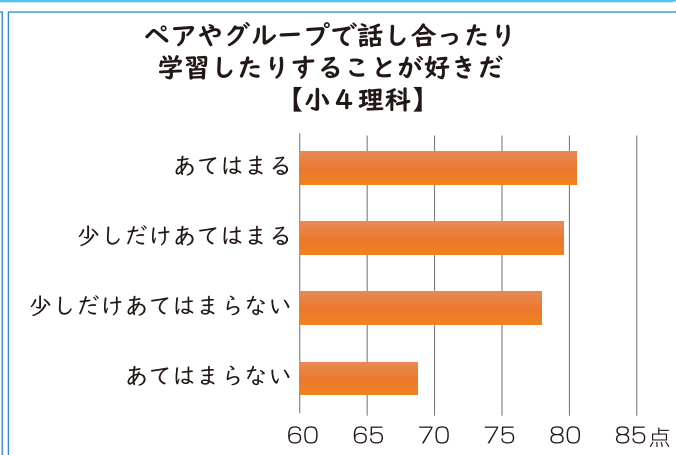
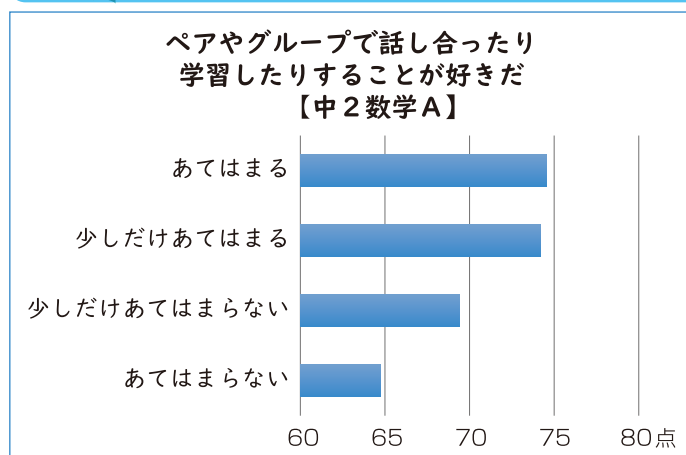
リスニング、語形変化、場に応じた表現、読解、英作文についての問題



学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学6年	職業に関するリスニング	99.8%	一人称の複数	58.3%
中学2年	天気に関する応答リスニング	99.4%	接続詞because	30.1%
実態と傾向	○リスニングは高い正答率であった。 ○語順に関する問題について、よく理解している。 ▲既習事項を忘れてしまっている傾向がある。 ▲時制や動詞の不規則変化を正確に覚えていない。		・自己表現をする機会を多くとり、対話を繰り返し練習させる。 ・学習後、1～2ヶ月ごとに既習事項について繰り返しトレーニングすることで、知識の定着を図る。	

学習意識調査より

～ 学習形態の在り方と学力の関係 ～



しりあぶりねこ©佐倉市

左のグラフは、児童生徒を対象にした学習意識調査の一部です。「ペアやグループで話し合ったり学習したりすることが好きだ」という問いに肯定的な回答をした児童生徒は、基礎的な学力が高い傾向にありました。

ペアやグループ活動では、自分の意見を述べやすく、少人数での学び合い学習は言語力、自己解決能力、学習意欲の高まりにもつながります。



佐倉くらのすけ

佐倉市学習状況調査のCBT化について

令和5年度の調査より、佐倉市学習状況調査の中学校の問題をCBT化しました。

目的は2つあります。1つ目は、グローバル化の進展や技術の発達によって、変化する社会に対応する力を子供たちへ身につけさせることです。2つ目は、教職員の採点・入力業務を削減し働き方改革を促進することです。

今年度は、さらに小学校高学年のCBT化を検討しています。

教育センター事業

学力向上推進事業

- ・ 佐倉市学習状況調査
- ・ 好学チャレンジプリント作成
- ・ 全国学力・学習状況調査
- ・ 教育課題調査研究

教育相談事業

- ・ 長欠調査の実施
- ・ ルームさくらの運営
- ・ 教育電話相談室の運営
- ・ 心の教育相談員配置
- ・ 学校教育相談員の活用推進

特別支援教育推進事業

- ・ 就学指導・就学相談
- ・ 特別支援委員会の運営
- ・ 特別支援教育支援員配置・看護師配置

道徳教育推進事業

- ・ 佐倉学道徳副読本
「佐倉の道徳」活用推進
- ・ 佐倉学道徳教材の作成

学校図書館活性化事業

- ・ 学校図書館司書研修会
- ・ 学校図書館担当者会議
及び研修会
- ・ 学校図書館司書配置

インクルーシブ教育システム推進事業

- ・ 合理的配慮に基づく支援推進
- ・ 言語通級指導教室の運営
- ・ 学校支援コーディネーターの活用推進

教育センター普及振興事業

- ・ センターだよりの発行
- ・ センター報告会の開催

特別支援教育へのサポート ～適切な支援による着実な成長を～

発達相談

担当の学校教育相談員

山辺 浩子・谷上 千秋
中村 恵利子

学校支援コーディネーター

野老 優子・笹岡 良雄

就学相談

担当の指導主事

江澤 友香・白澤 香

学校や幼稚園、家庭の生活の中でうまくいかないことがある、学習の定着に時間がかかる、発音や聞こえに心配がある等、困り感を抱えた幼児・児童・生徒、その保護者を対象に相談事業を行っています。

学校や幼稚園、家庭の生活の様子から実態を把握し、必要に応じて諸検査等を実施し、適切な支援について担任の先生と連携を図り、充実した学校生活につなげていきます。

保護者や学校からの就学に関する相談に応じます。関係機関等と連携しながら、その子にとって一番適切な学びの場や、教育支援の内容について一緒に考えていきます。

各相談の実施日時・場所・連絡先

相談日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）
午前10時30分～午後5時00分

場所 佐倉市将門町7
（佐倉市立佐倉東小学校内）

連絡先 ☎486-2400

佐倉市の教育相談事業 ～自分のできることを少しずつ…～

ルームさくら

開設日

月曜日～金曜日
（祝日、年末年始は除く）
午前10時～午後3時
・ 児童生徒の活動は
午前10時～午後3時
となります。

何らかの理由で学校に足が向かない状態になっている児童生徒に対して、学習や小集団生活の場を提供しています。教室には、学校教育相談員7名を配置しています。

相談員や子供同士の交流を通して、自己肯定感を高めるとともに、一人一人が安心して生活し、社会的自立に向けて支援していきます。また、保護者・学校・ルームさくらが一体となった不登校相談のネットワークづくりを進めていきます。

志津教室

佐倉市西志津4-1-2
（西志津ふれあいセンター2階）
☎489-1002
（第2・4月曜日お休み）

佐倉教室

佐倉市栄町8-7
（佐倉市ヤングプラザ2階）
☎484-6611

教育電話相談室

市民、保護者、児童生徒など様々な方からの相談を受け付けています。経験豊富な相談員が丁寧に対応し、アドバイスします。より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口の紹介もしています。

☎484-6611

